



計画づくりから地域福祉活動の新しい展開へ

明石市社協では、おおむね中学校区ごとに地区社会福祉協議会（以下「地区社協」）を設置し、地域福祉活動の旗振り役として住民の福祉学習や助成事業などを通して住民活動の支援を行ってきた。また、地域ボランティアを養成し、ボランティアグループと地区社協との連携による地域福祉活動を進めてきた。

このたび、市社協が策定した地域福祉活動計画（推進期間 平成23～27年度）をきっかけに、住民による地域福祉活動に新しい展開が生まれ始めている。

住民の声から課題が浮彫りに

地域福祉活動計画づくりの過程で浮き彫りになったのが、地区社協をめぐるいくつかの課題だ。

「地区社協とどう連携したらいいの?」「中学校区は広すぎて活動が進めにくい」といったボランティアや地区社協役員たちの声がた

くさん出てきたのだ。市社協は、これらの声を受け止めるとともに、地区社協が住民・ボランティア・自治会の連携の橋渡し役になれるよう、活動計画に「地区社協への活動支援強化」を位置つけた。

地区社協活動が新しい展開へ

市社協が最初に取り組んだのは、地区担当職員の配置である。地区担当職員が地区社協主催の行事などに積極的に顔を出すことで、地域で活発な意見交換が行われ、地区社協との距離が縮まった。各地区で



「お元気ですか?」地元の中学生やボランティアによるふれあい訪問

はこれをきっかけに住民発の新しい動きも出てきた。

野々池地区社協では、市社協が創設した助成金を活用した「ふれあい訪問事業」が始まった。地域のボランティアが、近隣の閉じこもりがちな人を定期的に訪問し、住民同士でお互いを気にかけてあう関係が少しずつ広がっている。また、大久保・大久保北地区社協では、みんなが活動に参加しやすいエリアの設定が検討され、地区社協が小学校区で再編されるなど、明石市の地域福祉活動は新しい展開を迎えつつある。

計画では、地区社協支援の強化とあわせて、ボランティア活動の支援強化も掲げている。今後、ボランティアや地区社協が集まる「校区ボランティア交流会」の開催などを通じて、地区社協活動とボランティア活動の両輪による活動が一層促進され、

住民主役のまちづくりにつながる



地区社協とボランティアの活動をつなぐ「校区ボランティア交流会」

明石市社会福祉協議会では、地域や各福祉団体などとの意見交換会を開催し、そこで出された意見を踏まえ、今年3月に、更なる地域福祉力向上のための基本的な方向性を示した「地域福祉活動計画～地域の福祉力を高める社協プラン～」を策定しました。

「誰もが安心して住み続けることができる地域づくり」に取り組もう、を基本理念に「地区社会福祉協議会の活動支援を強化することや、「担い手養成とネットワーク化支援を推進する」ことなどの5つの重点施策を掲げ、その実現に全職員が力を合わせて取り組んでいます。



明石市社会福祉協議会
理事長 濱脇 信也